

# SMILE

No.41

平成29年1月1日

発行

社会福祉法人 村山苑  
救護施設 村山荘

発行責任者 手塚真一

〒189-0024

東京都東村山市富士見町2-7-5

TEL 042-391-1262

FAX 042-397-4609

<http://www.murayamaen.or.jp>

## 循環型セーフティネット施設のいま!



### 座談会出席者

- ・伊井さん
- ・小栗さん
- ・叶井さん
- ・川藤さん
- ・新森さん
- ・Kさん
- ・Nさん
- ・Sさん
- ・Tさん

村山荘は循環型セーフティネットとしての役割を果たすべく、長期入院者や地域の生活困窮者等の受け入れを積極的に行っています。それと同時に、入居者のニーズやADLに合わせて地域移行や

他施設への移行も行っており、近年入居者の入れ替わりが激しい現状があります。こうした中で入居者がどの様に感じているのかを率直に聞いてみました。

○村山荘に入荘した経緯を教えてください。

叶井さん・・・病院に入院していたけど、主治医が退院して良いって言ってくれて、それで福祉事務所の人と見学に来て、申し込みをしてもらいました。見学での印象が良くて、病院よりも自由な生活ができると思って早く入荘したくて仕方なかったです。Sさん・・・自分は入荘前、世田谷区で单身生活をしながら病院のデイケアに通っていたんですが、体調が悪くなって入院して、一人暮らしは難しいだろうということになり、村山荘に申し込みをして、順番を待ってから入りました。それまで施設で生活をしたことがなかったので、最初は慣れなかったですね。村山荘に100名、隣に福祉事業センターがくっついていて、人が多いのに驚きました。

小栗さん・・・私は別の施設から来ました。前の施設の職員や福祉事務所の人から話を聞いて、良い所だろうなあと思つて見学して、入るのを決めました。

○救護施設を取り巻く社会情勢が変わり、村山荘も自立を目指す方に訓練を行うようになり、ずっと生活できるという施設ではなくなっています。施設の方針や設備の問題上、ADLが低下して安全に生活できなくなった方には、職員や福祉事務所から別の施設に移ることを願う事がありますが、それについてどう感じていますか。

新森さん・・・僕は28年間村山荘にいたので、これからもここで生活したいと思つているよ。別の施設へ行くように話をされたとしても、行きたくないなあ。

Kさん・・・自分も昭和44年から村山荘に住んでいるから、ずっと生活したいと思つているよ。施設が変わると環境も

変わり、生活している人も変わるから、人間関係を作るのが難しいでしょ。喧嘩になつてしまい手を出してしまふかもしれないから、慣れた村山荘での生活が安心するね。

川藤さん・・・私も兄弟から村山荘にいた方が良いと言われている。自分でも長年生活している村山荘にいた方が良いと思つています。

小栗さん・・・私も兄弟から村山荘での生活を勧められているし、自分でも村山荘にいたいと思つています。悪い時もあるけど、居心地が良いなと思つています。

Tさん・・・自分は納得できる施設があれば移つても良いなあと思つているけれど、なかなか納得できる施設が見つからないんです。今までに職員と3つ見学したけれど、段差が多くて車いすでは移動できなかつたりして、自分に合う施設が見つからないんですよ。

伊井さん・・・私は家族が近くにいる面会に来てくれるから、遠くの施設へは行きたくないよ。もし家族の近くの施設を勧め

られたとしても、もう村山荘に慣れたから、別の施設に行くのは嫌だ。

Sさん・・・自分なんかは老人ホームに行きたいと思つていますよ。これから職員と話合つて老人ホームの見学に行こうと思つています。

Nさん・・・私も、時代の流れだから仕方ないと思つています。去年、福祉事務所の人と他の施設へ見学に行つたけど、個室だったから断つてしまいましたけれどね。個室は寂しくて耐えられない。でも、もし福祉事務所の人や職員が、もうここでは生活が難しいと話したら、仕方ないから行くしかないと思つていますよ。

叶井さん・・・自分も行くしかないと思つていますよ。時代の変化は激しいですからね。村山荘は好きだけれど、もつと自分に合う施設が他にあるなら、行つてみたい気持ちもあります。

○退荘する方や新しく入荘する方が多く、入居者の入れ替わりが激しいですが、どの様に感じ

ていますか。

Sさん・・・去っていく人を見るのは寂しさがありますね。新しい人が入つて来ると、しばらくはどんな人なんだろうと不安に思いますね。

新森さん・・・居なくなる人があるのはそりゃ寂しいわ。長年一緒にいた人がいなくなるのは特に寂しいわ。最近知らん人がいっぱいおる。僕が入つた時は亡くなつたりした場合しか入れ替わりはなかったからなあ。

小栗さん・・・仲の良かった人がいなくなる時は寂し過ぎて、見送りに行かなかつたこともあります。新しい人が入ると職員が新しい人に入ると教えずにいてはいけないよ。そうだから、用事があつても話しかけられません。

Tさん・・・新しい人が来ると、どつから来たのかなと思ひますね。新しい人には自分からいろいろ教えてあげています。

今回の座談会では、村山荘の

入居期間が長い方ほど別の施設へ移ることに對して不安がある様子でした。新しい環境で生活を一から構築することは大変なことです。実際に、ADLの低下などにより村山荘での生活が難しくなってきたため、職員や福祉事務所から他施設へ移ることを提案しても、強く拒む方もいるのが現状であり、目の前の方の最大の利益とは一体なんなのだろうかと、職員も日々葛藤しています。しかし一方で、村山荘よりも自分に適した生活の場所があるのではないかと、積極的に他施設を見学したり、アルバイト訓練を行っている方も多

くいます。

### 「地域や他種別施設への移行促進について」

施設長 手塚真一

救護施設は、様々な障害をお持ちの方はもちろんですが、ホームレス状態やDV被害者の方など、他の専門施設で受け入れることが困難な方を受け入れています。近年は、少子高齢化や不安定な雇用や低収入による生活の不安定化を背景に、ひきこ

もりや孤独死、社会的孤立、子どもの貧困などが複雑に絡んでいる問題が増えており、セーフティネット機能を担う救護施設の役割は、ますます重要になっています。

以前の救護施設は、入所しただけで生活して行けるという終の棲家的な考え方でしたが、現在は、自立支援に力を入れ、できる限り地域に移行できるように支援しています。全国救護施設協議会が示した「生活困窮者支援の行動指針」の中で、すべての救護施設が「循環型セーフティネット施設として機能するため、利用者の地域や他種別施設等への移行促進」が明記されています。また、措置機関からの緊急の受け入れ要請にも対応していくために、常に受け入れるためのベッドを準備しておかなければならず、入居者の状況に合わせてより適した居場所の確保が課題となっています。実際にはベッドが空けばすぐに待機者を受け入れていますので、常に空きベッドがあるわけではありませんが、一時入所の居室で

対応する事も可能です。

村山荘は、地域移行、他種別施設への移行を積極的に進め、昨年度は100名の定員に対して25名の方が退所され、新規の入所者を受け入れることができませんでした。退所者の中には、治療が必要で入院された方や、入院先でお亡くなりになった方もおり、すべてが地域移行、他種別施設に移行できたわけではありませんし、利用者の入れ替わりが多ければ、その分、職員の負担も増えることとなりますが、セーフティネット施設として機能することが利用者の自立支援につながるかと考え、今後も地域移行、他種別施設への移行を進めて参ります。

### 施設内自立

援助員 宮國 夏希

村山荘の仕事では、少しずつでも入居者の方が自分の力でできる事を増やせるように、どんな方法があるのかを考える場面が多くあります。それは、村山荘が入居者の方にとつての通過点であり、循環型の施設であるという所が理由であると思います。

特に最近では、入居者の方の入れ替わりが多い様に感じています。新しく入居されてくる方は福祉事務所や病院から事前に情報が提供されますが、その情報と違う場合があります。戸惑う事があります。しかし、目の前の本人と関わって行きながら、どの様にすれば自立を促せるのか、希望に沿えるのかを考えて支援しています。

例えば、村山荘には病院から入所する方が多くいますが、村山荘は病院とは違い、薬の管理を本人が出来るように関わりを持っていきます。本人も職員も始めは不安を感じる事もありますが、一日分の管理などから始めて、少しずつステップアップしてい

【入退荘状況】

	入荘者数	退荘者数
平成20年度	9	9
平成21年度	5	5
平成22年度	7	7
平成23年度	8	8
平成24年度	10	12
平成25年度	14	11
平成26年度	14	14
平成27年度	25	25
平成28年度	18	17

\*12/31時点

きます。ステップアップの方法も一人一人に合わせて考えています。本当に人によってあてはまる方法は違うものだと感じながら、試行錯誤して支援しています。

このように、利用者の方の今を見つめながら今後の生活についても考えて支援していくという事は、入居者の方にとって、とてもたくさん選択肢が広がっているのだらうと思います。村山荘は入居者の方の可能性を広げる手助けとなる役割を果たしている施設であり、職員の一人として身を引き締めて働いていきたいと思っています。

### 地域移行促進

援助員 山田 未奈子

近年、救護施設に求められる役割は多様化しています。それぞれの役割に応えられるよう、現在村山荘では一時入所事業や通所事業、居宅生活訓練事業を展開しています。

私はその中の居宅生活訓練事業に4月より携わっています。地域での生活を希望する利用者一人一人に合う支援を模索する過

程で驚いたことは、社会資源を上手く利用することで、利用者の生活の幅が広がるということです。

先日、村山荘入居者で居宅生活訓練を行っている方の薬管理の支援をどのようにしていくかを話し合う関係者会議をしました。その方は薬カレンダー等を使用して薬を管理していますが、薬をセットする際には確認が必要です。一人暮らしを始めたら誰がどの様に確認するのが課題でした。そこで、訪問看護サービスを利用してはどうかということになりました。後日、訪問看護の方と相談をし、週一回本人の家で薬のセットを確認してくれることになったのです。この様に、できない所をフォローしてくれる社会資源が多く存在すれば、地域生活の可能性がますます広がって行きます。

話しは変わりますが、私には二歳の保育園に通っている娘がいます。ある日娘は私が仕事に行くのが分かれると大泣きしてしまいました。すると、「まあまあ、そんなに泣かなくても」と言わんばかりに娘の側に寄り、そっ

とブロックを差し出してくれるお友達がいました。子どもは子どもなりに社会を作り、助け合っ

て生きていくのだと、自分の仕事にも通じるものを感じました。まだまだ勉強不足ですが、知識を増やしながら、地域生活を希望する方が、その人の望む生活に少しでも近づけられるように支援していきたいと思っています。



アパート訓練  
実施者インタビュー  
大保 雅治さん

○アパート訓練の状況を教えてください。

アパート訓練を始めて1年くらいになりますかね。この1年の間に1週間〜2週間の訓練を7、8回しました。私は骨粗鬆症で

腰痛があったりするので心配でしたが、体調も良く、順調に訓練できています。職員さんもちょうど良い具合に放っておいてくれるので、好きなようにできます。今は訓練の開始と終了の時に荷物を運んでくれる程度ですが、訓練を始めたばかりの時はアパートを訪問してくれて、自分の皮膚疾患を気にして冷房を適切につけるようにアドバイスしてくれたり、お風呂を清潔に保つために換気扇は常につけておくようにとアドバイスをくれました。

○なぜアパート訓練をしているのですか。

やっぱり一人暮らしをしたいからです。その方が自由で気楽でいいですからね。好きな時間にお風呂に入れますし、人目を気にせず生活できますから。それに、新宿区に戻りたいと思っています。村山荘に入る前は新宿に住んでいたのですが、慣れた便利な新宿に戻りたいです。

○アパート訓練をしてみても大変な事はありましたか。

食事のメニューを考えるのが大変でした。毎回毎回考えるのが大変だったのですが、訓練を何度かするうちに、予めメニューを決めておけば楽だと気が付きました。朝は卵かけご飯と納豆、昼は焼きそば、夜は野菜炒めと決めたら、とても楽になりましたし、飽きもきていません。

家事はもともと昔にはならないのですが、ちよつと気を抜くとすぐに部屋が汚れてしまいます。ですから、まめに掃除をして綺麗にするようにしていますよ。汚れた部屋に慣れてはいけませんからね。

○今後の予定を教えてください。

今は福祉事務所の人と相談しながら、新宿区でアパートを探しています。早く一人暮らしを始めたいです。今通っている病院の主治医が新宿区のデイサービスを紹介してくれるそうなので、一人暮らしを始めたならそこに通う予定でいます。ゆくゆくは仕

事をしたいと思っています。

\*\*\*\*\*

現在村山荘では、複数の方が一人暮らしを希望しています。一人暮らしは施設での生活とは大きく環境が異なるため、その際に起こりうるリスクを想定しながら訓練を進めていきます。一人暮らしをするためには本人の努力が不可欠ですが、必要があればさまざまな地域の支援機関に協力を求めることにより、施設を出た後でも多くの支援を受けられ、孤独にならないような態勢を整えていきます。しかし、アパート訓練を始めてみて、施設とは違う状況に疲れてしまい、諦めてしまう方もいます。その人の状況に合わせた精神的・身体的なケアを行いながら、希望を実現できるように支援を行っています。

### 他施設移行者インタビュー

村野 翔一郎さん

(養護老人ホーム)

昨年2月末に村山荘から養護

老人ホームへ移られた村野さんに、養護老人ホームでの生活について聞いてみました。

○生活時間や日々の過ごし方について教えてください。

村野さん・・・起床・就寝・食事等は村山荘とほとんど変わりないです。将棋をやったり、たまに散歩したり、風呂はデイスリーブで週に2回入っています。洗濯もやってくれるし、作業もないから、楽に過ごしています。ホームに物を売りに来る人がいて、おやつも洋服も外に買いに行かなくて済むので、楽です。行事は色々あります。僕は見ていただけですが、盆踊り大会がありました。した。

○金銭管理はどうしていますか？

村野さん・・・村山荘では自己管理だったけど、今は毎週水曜日に2000円の小遣いを貰っています。そこから、煙草を1日1箱買い、残金で缶コーヒーを買ったりしています。

○「のんびりしたい」というのが、村野さんの希望でしたが、今は希望の生活に近づきましたか？

村野さん・・・村山荘では4人部屋でしたが、今の施設では2人部屋になり、静かでのんびりしています。ですが、周りが静かだから、元気がでない感じもあります。そばに喫茶店があればコーヒーを飲みに行きたいなと思います。

今回インタビューにご協力いただいた村野さんは、のんびりした生活を送られている様ですが、少し物足りなさも感じている様です。

村野さんの他にも同じ養護老人ホームに移った方がいますが、その方は、部屋でじつと過ごすことはなく、他の方のお部屋にお邪魔したり、食堂でコーヒーを飲んだりして過ごしているそうです。



## 7月 合同納涼祭

屋台やゲームの他、地域の方による太鼓の演奏や村山荘音楽クラブによるフラダンスの発表がありました。小雨の降る中、多くの地域の方々にもお越しいただきました。



## 9月・10月 一泊旅行

2班に分かれて伊豆方面へ旅行に行きました。熱海ビーチラインを通って海の見える場所で休憩をしたり、フラダンスショーを観覧したり、カラオケをしたりと、のんびりとした行程での旅行となりました。



## 11月 日帰り旅行

一泊旅行不参加者の中から希望者を対象に、日帰り旅行を開催しました。今年は江の島へ行き、水族館や海のある風景を楽しみました。

## 12月 忘年会

今年も新任職員による出し物や、懐メロ歌手をお招きして、昭和歌謡曲を聞きながら食事会を行いました。



### 編集後記

村山荘のような救護施設は都内に10か所しかなく、同じ福祉施設である特別養護老人ホームなどの介護施設と比べるとマイナーな存在です。しかし、生活保護や生活困窮者という言葉は聞いたことがあったり、周りでそのような方を知っている方もいるかもしれません。村山荘では救護施設が存在や役割を広く知っていた、ただけるように、見学やボランティアを随時受け付けております。また、地域の方のお困りにも対応できるように相談室を設けておりますので、いつでもご連絡ください。⑧